

# まちづくり新聞 笛吹

NO.6 2020年7月発行

歴史と温泉とフルーツのまちづくり

発行責任：樋口滝人 070-5565-4562

## 市議会議員の活動実績（議会での質問）一端がわかる

議員の現在までの任期中(3年8か月)、議会で市長や行政に向かって一般、代表質問する機会が15回ありました。うち一度もしていない議員が1人、2度が2人、3度も3人います。

19人の笛吹市議会議員は市民の代表者です。彼らに我々の代表として行政や市長へチェック機能を果たして頂いてます。その議員が実際仕事をしているのか、如実に客観的に証明できる最たるものが定例議会(年4回)での一般質問です。各議員が日頃活動を通じて市民の要望やこれからの市のあり方を市長や行政に直接質問や提案をして具現化するための**議員に与えられた権利**です。これを自ら放棄している議員がいることはいかがでしょうか。議会開催数の半分以上で質問した議員は8人。そのうち全議会質問に立った議員は2人です

また、区長を兼務している多忙な議員がひとり。(議会での質問はたった2回)。区長の給与(年62万円)と議員歳費(年570万円)の両方を市民の血税からいただいて、区の利益を優先して田んぼに水をひくことのないようお願いしたい。



これからも市民の幸せのために、市長と議会は両輪となって活躍を期待したい。



## 今年は 区費を半分にしてください !

第二次世界大戦以来、大惨事にはいくつか見舞われたが、これほど世界中を驚愕と恐れに引きずり込んだ事態があったらどうか。社会生活は滞り、気持ちがすさむことは日常茶飯事になった。収入が減ったり、他人との接触を控えたり

して日常生活の質が格段に落ちたと言えよう。残念ながら未だ、ウイルスを根絶するためのワクチンの開発は日の目を見ていない。こんななかにあつて、社会生活を営むうえで1番身近な団体である、自治会。その事業は大幅な縮小と中止に追い込まれている。そこで、自治会によって区費に相違があるが **せめて 区会費の半分以上を住民に還付すべきだ**とおもいますがいかがでしょうか。

# まちづくり新聞 NO.6-2

2020年7月 笛吹情報誌

コロナの影響でしばらく休刊してました。再刊しますのでよろしくお願ひします。

## 山下政樹市長 ごみ袋代 安くしてください！

5年前の倉嶋清次 前市長が作った条例で指定  
ごみ袋代金が他市の倍額に設定されました。  
変えるのは・・・今です。



市への調査でごみ袋の原価は 1枚4.2円10枚で42 円と判明  
それに 商工会・小売り手数料66円を加え

## ごみ袋代は110円(現在300円)で販売できる！

山下市長は昨年2月の議会で、K議員の  
可燃ごみ袋の単価についての質問に

「排出量削減の観点から価格を設定した」

と答えた。・・・甲府市など近隣市が笛吹市の  
半額の150円で販売してるのと対照的に笛吹市  
民が他市と同じ金額にすれば、ごみの量が格段  
に増えることを心配している。市民を信用して  
いないのかな。



編集者；樋口滝人(ひぐちたきひと)

現在：まちの不動産 水平リーベ代表

笛吹市石和町在住

電話 070-5565-4562

経歴：早稲田大学教育学部卒

山梨県PTA協議会 会長

日本PTA全国協議会 常任理事

山梨県社会教育委員

甲府青年会議所専務理事